



2. 期間：昭和55年10月18日(土)～11月2日(日) 16日間

3. 訪問先：Ricardo Consulting Engineers Ltd., AB VOLVO, IFP, AVL, R. Bosch GmbH, Kistler, FIAT, 他

4. 概算費用：700,000円(15名参加の場合)

5. 参加申込締切日：昭和55年9月20日

6. 旅程：次表

7. ご照会先：

〒102 千代田区五番町10-2
(社)自動車技術会・技術課
電話 03-262-8211

(参加のおすすめ、計画表をご請求ください)

(旅程)

	月・日(曜)	地名	訪問先
1	10/18(土)	東京(成田)発→(磯内泊)	
2	10/19(日)	ロンドン	
3	10/20(月)	ロンドン→ショー・ラム・バイ・シイ→ロンドン	Ricardo Co. Engineers Ltd.
4	10/21(火)	ロンドン→ヨットボリイ	
5	10/22(水)	ヨットボリイ→コペンハーゲン→パリ	AB Volvo
6	10/23(木)	パリ	
7	10/24(金)	パリ	IFP
8	10/25(土)	パリ→ウイーン	
9	10/26(日)	ウイーン→グラーツ	
10	10/27(月)	グラーツ→シュツツガルト	AVL 研究所
11	10/28(火)	シュツツガルト→チューリッヒ	R. Bosch GmbH
12	10/29(水)	チューリッヒ	資料整理・討論
13	10/30(木)	チューリッヒ→トリノ	KISTLER
14	10/31(金)	トリノ→ローマ	FIAT
15	11/1(土)	ローマ発	
16	11/2(日)	東京(成田)着	

上記旅程は変更されることがあります。

第34回通常総会

日時：昭和55年5月21日(水) 13:30～15:10

会場：東京・東条会館ホール

常任理事より本日の出席正会員数並びに委任状提出正会員数を報告。豊田会長を議長に推し、議長より定款第30条の定めるところにより、本通常総会成立の旨を告げた。議事に先立ち豊田会長の挨拶があった後、議案の審議に入った。

出席正会員：70名

委任状提出正会員：7,664名

(昭和55年3月31日現在の正会員数 14,879名)

第1号議案：昭和54年度事業報告の件

本案、石原庶務担当理事から配布資料にもとづき事業の概要について報告が行われた。

第2号議案：昭和54年度決算報告の件

本案、田中会計担当理事から配布資料にもとづき諸会計の報告が行われた。

次いで、伊藤監事から監査結果の報告があり、第1号及び第2号議案に対し議長賛否を求め、異議なく承認された。

第3号議案：昭和55年度事業計画の件

本案、森田庶務担当理事から配布資料にもとづき事業計画案の説明が行われた。これに対し議長賛否を求め異議なく承認された。

第4号議案：昭和55年度予算の件

本案、新木会計担当理事から配布資料にもとづき諸会計の予算案の説明が行われた。これに対し議長賛否を求め異議なく承認された。

第5号議案：昭和55～56年度評議員決定の件

本案、山川評議員選挙管理委員から配布された評議員名簿にもとづき選挙結果を報告し、議長賛否を求め異議なく承認された。

第6号議案：昭和55～56年度会長・副会長・支部長選任の件

本案、第1回評議員会において推薦された会長・副会長・支部

長案を配布し、豊田会長からこの案によりそれぞれ選任したい旨提案があり、これに対し議長賛否を求め異議なく承認された。

第7号議案：昭和55～56年度理事・監事選任報告の件

本案、理事・監事名簿を配布し、議長から第1回評議員会において名簿のとおり選任された旨報告があり了承された。

ここで、議長から新会長高橋宏氏の紹介があり、高橋新会長の挨拶が行われた。

第8号議案：名誉会員推薦の件

本案、議長から次の2氏が第18回理事会において名誉会員に推薦された旨報告があり、満場一致承認された。

伊藤正男氏、故関 敏郎氏

▶第30回自動車技術会賞授賞式

5月21日(水) 15:30～15:50 東条会館ホール

授賞式は豊田会長の挨拶に引き続き石原庶務担当理事の審査経過報告が行われた後、浅原賞学術奨励賞、浅原賞技術功労賞及び斎藤賞が授与された。

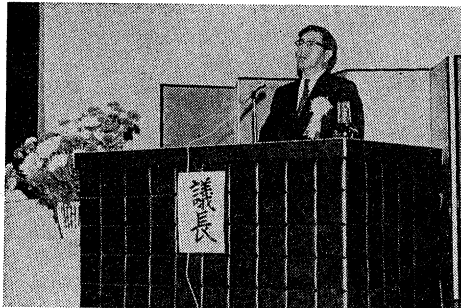
《浅原賞学術奨励賞》

(1) エンジン-排気処理系-車両システムのシミュレーションと最適化に関する研究

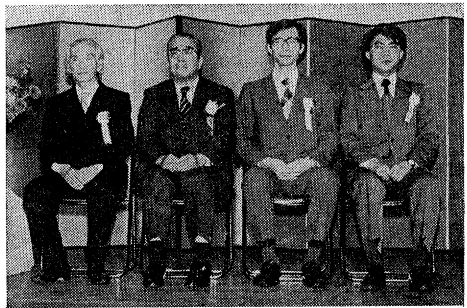
(受賞者) 中西 清君

昭和45年京都大学大学院工学研究科(修士)卒。トヨタ自動車工業・東富士研究所第12技術部第23実験課担当員(授賞の理由)

最近とみに厳しさを増してきたエネルギー制約に対応して、複雑多岐な走行条件と厳しい排気ガス規制の諸条件を満たしつつ、燃料消費率を最少にするような設計の最適化の方向を定めることは



通常総会で挨拶をされる豊田会長



第30回自動車技術会賞受賞者

容易なことではないが、この困難な問題に取り組み、大量のデータの採取と、その処理の自動化と高能率化を達成するとともに、最適設計の諸条件を迅速・適確に探る手法を開拓した。

また、最適制御理論を駆使するに当たっては、種々の現実的な考慮を払い、しかも必要な忠実度は保持して実用的な結論を導き、これを実車の実験により確認するという多大な研究作業を遂行して成果を得たものである。

今後の研究により一層洗練の度を加えられることを期待するものである。

(2) メタノール100%改質ガスエンジンの高熱効率の可能性研究

(受賞者) 広田 寿男君

昭和47年北海道大学工学部原子工学科卒。日産自動車・中央研究所新動力研究部研究員

(授賞の理由)

石油にかわる自動車燃料として世界的に注目されているアルコール燃料について、特にメチルアルコールの特性を活用し、エンジンの熱効率の向上をはかる方法として、排気熱を利用した接触法によりメチルアルコールを H_2 ガスとCOガスに分解し、これによってエンジンを運転する車載の改質ガスシステムについて詳細な実験を行った。

その結果、熱効率を100%以上大幅に向上させ得ることを初めて実証するとともに、そのシステムの問題点を明らかにして、今後の実用へ向つての開発の端緒を開き、エネルギー節約の技術の進歩の方向に大きな示唆を与えた。なお、今後の研究により実用の域への完成を期待するものである。

《浅原賞技術功労賞》

ディーゼルエンジン用アルミニウム合金ピストンの設計製造に関する技術の開発

(受賞者) 石原 竹次郎君

昭和16年早稲田大学専門部工科機械工学科卒。

泉自動車工業・技術顧問

(授賞の理由)

内燃機関用ピストン、特にディーゼルエンジン用アルミニウム合金ピストンの設計・製造技術に携わり、エンジンの性能向上に寄与したのみでなく、ピストン・ピストンピンなどについて多年の研究にもとづく設計・寸法標準を公開し、アルミニウム合金ピストンの事故原因を解明しその対策を明確にした。ピストンを通

して自動車技術の進歩向上に寄与した功績は極めて大でありこれを賞する。

《齋藤賞》

自動車用重ね板ばねの設計と自動車の振動乗心地の向上に関する功績

(受賞者) 亘理 厚君

昭和16年東京帝国大学航空学科学卒。(財)日本自動車研究所 所長

(授賞の理由)

機械力学の基礎的研究を発展させて自動車の振動及び運動性能に関する理論的解析を行い、振動の軽減と操安性の向上に貢献し、また自動車用懸架ばねの特性について解析的研究を行い、重ね板ばねの新しい設計理論として板端法を確立した。これは従来とは全く異つた仮定にもとづく独創的理論で、その設計値は実験値とよく一致し重ね板ばねの正確な設計が行えるようになった。板端法は重ね板ばねの基本的手法としてJIS B2710 (1977)「重ね板ばね設計基準」に取り入れられている。また、自動車用に板間摩擦の少ない3枚ばねを設計試作し、これにより自動車の振動乗心地を向上させるとともに、ばね重量の大幅な軽減をもたらした功績は、極めて大でありこれを賞する。

▶特別講演会

5月21日(水) 16:00~17:00 東条会館ホールにおいて、第30回自動車技術会賞(浅原賞学術奨励賞)を受賞した中西 清氏(トヨタ自工)及び広田寿男氏(日産)の両氏による特別講演会が約1時間にわたって行われた。

▶懇親会

5月21日(水) 17:30~19:30 東条会館3階橋の間で120余名の参加者を得て盛況のうちに行われた。豊田会長の挨拶に続いて高橋新会長より挨拶があり、五十嵐名誉会員の乾杯の音頭により幕を明け、和やかに会員相互の親睦を深めあつた。

▶見学会

5月22日(木)5班に編成されて工場見学会が行われた。

工場	参加者
日産自動車(株)座間工場	102名
日本発条(株)横浜工場	41名
三菱自動車工業(株)川崎工場	90名
日本電装(株)安城工場	80名
トヨタ自動車工業(株)上郷工場・堤工場	95名